

高校生による地域創造の試み
～安芸住みやすい街推進委員会 WISH の立ち上げと活動～

高知県立安芸桜ヶ丘高校情報ビジネス科
松下明優華 小松磨奈 小松咲絵 小松愛菜
藤田真子 川竹琉晴 竹内遥南

1. プロジェクトの経緯

安芸桜ヶ丘高校情報ビジネス科では、2年生の選択科目で、地域の現状を知りビジネスプランを設計することに取り組む授業があります。授業には、色々な方が来校されその取り組みや想いを伺い地域の魅力を再発見することができました。それらは、地域密着のテーマで愛着があり充実した楽しい授業でした。

授業を経て私たちは、自然発生的に「プランニングだけではなく地域のために何かしたい」と思いました。それぞれ想いをもち寄り、何ができるのかを話し合い、①少子高齢化にアプローチする。②安芸の浜をきれいにする。という2つの目標を掲げ、その実行組織として「安芸住みやすい街推進委員会WISH」を立ち上げることとなります。

2. 少子高齢化にアプローチする

安芸市内の幼稚園や保育園、高齢者福祉施設を紹介してもらうべく安芸市役所を訪問し、WISHの設立と想いを伝えました。

諸々、調整をしていただきましたが市営・民営の保育園ともに、学校を通じた公式な体験学習なら協力できるが、単なる交流で部外者を園内に入れる事は難しいという事。ちびっ子との交流計画はストップします。

その後「安芸市あったかふれあいセンター」を紹介してもらい、お年寄りとの交流が始まりました。利用者と「100歳体操」やレクリエーション、「土佐弁かるた」「ジェスチャーゲーム」などを通じて交流することができました。

4月から10月まで、WISHとして訪問させていただいた施設は安芸市内の5施設、累計で14回の訪問活動になりました。



<職員の方から> お年寄りにとって、話し合っただけで答えを導き出すことは、会話する・コミュニケーションを図る事になり、口の運動や、笑うことで表情筋の運動の効果があると伺いました。また、これらは、一人暮らしのお年寄りにとっては失われがち。孫世代の高校生の訪問が相乗効果となり、おじいちゃんおばあちゃんはとても喜んでいました。また、来てくださいね。と施設長さんの言葉に、お役に立てたと嬉しい気持ちになりました。



3. 安芸の浜をきれいにする

浜弁当は、地曳網の漁の時など、多くの人が集まる時に食べ物を持ち寄って浜で集った昔の風習です。私たちは、浜の掃除の企画を進めるうちに、「きれいになった浜で浜弁当を復活させたい！」と考えるようになりました。市役所や土木事務所、シルバー人材センターなど関係者に協力をお願いするも、当初、高校生の提案に大人は一様に半信半疑で受け止められていたようにも思いました。

<転機>

- FM高知主催のコスモアースコンシャスアクトク
リーンキャンペーンとして実施決定！
- 「安芸釜あげちりめん井楽会」の全面バックアップ
で、安芸名物ちりめん井の浜弁当の実施も決定！
- 安芸漁協の協力で途絶えていた安芸の浜での地曳
網も復活決定！



5月、企画が整い、FM高知のラジオで募集開始。過去最多980名超のご応募を頂きました。しかし、ちりめん井の提供に限りがあり、定員を500名に迄増やして対応することが精一杯でした。

6月23日、浜清掃当日は絶好の清掃日和でした。ボランティアの手によって安芸の浜がきれいになり、ちりめん井で浜弁当を楽しんだ後、地引網で獲った魚は参加者へ。大きな太刀魚や鯛の抽選の時には浜清掃一番の盛り上がりとなりました。参加者へのアンケートや振り返りで「高校生のおかげで、雰囲気明るくなったし、進行もスムーズにできた。ありがとう」とありました。WISHとしての目標であった人を笑顔にすることが達成でき、有意義な活動になったと思えました。



今年の夏も大きな台風がやってきました。そのたびに安芸の浜は流木や漂流ゴミでいっぱいになります。WISHは、高校生主体で2回目の浜清掃を行う計画を立てました。前回のようにFM高知という大きな後ろ盾がなく、果たして高校生だけで実施できるのか不安でした。市役所や県土木に許可申請を進める一方で、目標参加人数120名を掲げてこれまで繋がりのある施設などに協力を依頼しました。

11月10日、2回目の浜清掃は晴天に恵まれ、総勢82名で実施することができました。WISHだけではなく安芸高校の有志生徒とも実行組織を組みました。警備係、駐車場係、受付係、浜弁当(調理)係、ごみ回収係、本部係に分かれて運営しました。



4. WISH初年度の振り返り

WISH初年度の取り組みは、①少子高齢化にアプローチする。②安芸の浜をきれいにする。の2本柱です。高齢者福祉施設の訪問はインフルエンザ等の心配から10月までの予定でした。浜の清掃も予定の2回を実施することができた。

1年生から3年生までのWISHコアメンバーに、これまでの感想を聞いてみた。

- ・3年間で一番楽しいボランティアだった。
- ・安芸の浜のことを気にすることもなかったし、浜弁当も知らなかったから、今回この活動に参加して安芸の伝統を知れてよかった。
- ・高校生が主体となって、企画・運営を行い多くの方を巻き込んで実施できてとても良い活動だと思った。
- ・次は、小学生も巻き込んで実施したい。
- ・今まで訪問して知り合った高齢者福祉施設の方も浜清掃に参加してくださり、そこで得た繋がりを感じることができました。
- ・安芸高校と統合する前に、一つのことに向かって2校が協力し合い取り組めたことが嬉しかった。など、全てのメンバーが「良かった」と感じていてくれていることも嬉しいです。

昨年度の授業の一環で、地域について学び地域の魅力を再発見し「地域のために何かしたい！」という強い思いから、当時6名のメンバーで「安芸住みやすい街推進委員会WISH」を立ち上げた。安芸市の高齢者福祉施設は、5施設14回の訪問となったが、当初はこんなにも多く施設訪問をできるとは思っていなかった。同じ施設へ2回3回と訪問をする中で、私たちのことを覚えていてくれていたり、温かく迎え入れてくださるスタッフの方や、私たちの考えたレクリエーションを全力でして楽しんでくれている利用者さんの笑顔を見てとても暖かく幸せな気分になり、「もっと楽しませたい！また来たい！」自然とそう思える交流でした。

昨年度の西日本豪雨で被害を受けた安芸海岸の浜清掃も、1回目はFM高知さん主催の「コスモアースコンシャス アクトクリーン・キャンペーン」とタイアップして行うことができた。そこでは、自分たちでエンターテイメントとして、安芸の伝統でもある「浜弁当」を復活させること、今はしていない地引網を参加者全員であることを企画した。企画にあたって、市役所や漁協との交渉や打ち合わせも自分たちで行い、約500名の方が参加する大イベントを成功裏に収めました。2回目は自分たち高校生だけの企画・運営に取り組みました。参加者は100名に満たないほどでしたが、自分たちの力で開催できたことがとても嬉しく充実した活動でした。

このような経験を高校生活で体験できたこと、高校生の私達がリーダーとなって仲間、安芸市を引っ張っていったことがこれまでの人生の中で一番楽しく輝けたと強く思いました。

「WISHの活動の相手は“人”。」人と繋がる事が、どれほど大変で苦勞することか強く実感しました。相手があることで悩む事、面倒な事もありましたが、嬉しいこと。楽しい事をそれ以上に頂けた活動だったと思います。そして、活動の先にはとても楽しく幸せな気持ちが待っていました。後輩たちにもこの気持ちを味わって欲しいと思います。その為にも、WISHの活動が継続することがとても重要だと強く思います。